

# まちのわだい

～カメラスケッチ～



## 訓中で1日防災学校

訓子府中学校の生徒を対象に11月12日、「1日防災学校」が行われました。

日本赤十字北海道看護大学の根本昌宏教授と北見市救急法赤十字奉仕団の西野直樹防災士の指導の下、1年生31人が段ボールベッドの組み立て方や仮設トイレの仮想体験などの避難所運営体験を行いました。

そのほか、全校生徒で根本教授の講演を受け、生徒たちは防災に対する意識を高めました。



## 卵から5羽がふ化

訓子府小学校5年の渡邊瑛琉さんが、父親の友人から譲り受けた有精卵15個のうち5個をふ化させ、ひよこが誕生しました。

機械に有精卵を入れて温度管理をしながら育て、瑛琉さんは「初めての経験だったが、ふ化した瞬間を見たときは感動した。成長して卵が産まれるのが楽しみ」と話していました。



## 記念すべき日を祝う花火を打ち上げ

新型コロナウイルス感染症の影響により、3月以降町内のイベントの中止が続いていることから、町内を盛り上げるため、開町100周年・町制施行70周年記念式典の開催に合わせ、11月1日に花火を打ち上げました。

感染症対策で3密を避けるため、打ち上げ場所は非公表でしたが、夜空を彩る400発の花火は町内を大いに盛り上げました。

## 健康講演会を開催

北見医師会会長の吉田茂夫氏を講師に招き、11月11日に「くねっぶ健康講演会」が開催され、約100人が参加しました。

吉田氏は「新型コロナウイルスの現状と今冬のインフルエンザ流行期に備えて」と題して講演し、「栄養と休息をしっかり取り、長引く感染症との生活をがんばっていただきたい」と話していました。

## 感染症に対する知識を学ぶ



## 地域の“いいね”がたくさん！

地域での支え合い活動とその活動を支え、広げていくための町の課題を整理し、今後の活性化を図ることを目的として、11月19日に「地域の“いいね”発表会&くねっぶの未来づくり大会」が開催されました。

当日は「自粛期間で気づいた地域のいいね！」をテーマに、地域での事例発表やグループ討議、リモートでのグループ発表などを行い、これから町で取り組みたいことなどについて、話し合いを深めることができました。



## 秋マルシェを開催

手作りの雑貨や訓子府町産の野菜などを販売した「つながる秋マルシェ」が11月7日、銀河公園の広場で開催されました。

会場には、布の小物やアクセサリ、サツマイモ、ゴボウ、うどん、蜂蜜、ソフトクリーム、たれカツ丼などが並び、商品を買求める方たちでにぎわいました。



町の素敵な瞬間を紹介しています。

今月は「わくわく園のポップコーン作り」です。

